

25 mm

← 40 mm →

関西・中部支部合同大会の講演要旨の書き方

(京大院農, *名大院農, **農化産業中研) ○関西太郎†, 中部花子*, 京都紅葉**

(1行空行)

【緒言】

← 25 mm →

用紙：A4用紙1ページ。

マージン：上左右25mm, 下30mm。

フォント：MS明朝10ポイントを基準とする。
タイトル, 所属, 発表者：タイトルは本文よりやや大きめのフォント (MSゴシック, 12ポイント) とし, 太字とする。マージンを除く左上部に40mm以上のスペースを空ける。演者に○印を付け, 所属は略号 (例: 京大院農) で書く。また所属が複数の場合は上付き*記号を用いて区別する。

本文：タイトル行から1行空け, 2段組で書く。
図表：本文中に貼り込む。図表のタイトルは和文, 英文どちらでもよい。また, 原稿はカラーでもよいが, 要旨集は白黒で印刷されます。

ページ番号：付けない。

連絡先：電話, Fax 番号, e-mail アドレスを原稿末尾に記述する。

送付部数：コピーを含め2部お送り下さい。

【実験方法】

による の作成

乳化剤 (または) とマルトデキストリン (MD) の混合水溶液 (乳化剤濃度 10% (w/w), MD 濃度 0~30% (w/w)) に溶解した。その溶液

を の特性を表1に示す。

表1 ΔΔΔの物理化学的特性

	Solubility [% (v/v)]	Boiling temp. [°C]
d-XXXXXXXX	insoluble	136.2
Ethyl xxxxxxxx	7.2×10^{-5}	144.2
Ethyl yyyyyyy	6.7×10^{-3}	116.2
Ethyl zzzzzz	1.7×10^{-2}	102.1

での

内径 22 mm, 高さ 50 mm のガラス製試料瓶に

所定時間毎に試料を取りだし, 量をガスクロマトグラフで測定した。

による速度解析

○○過程の速度解析には次の Weibul 式を適用した。

$$R = \exp[-(kt)^n] \quad (1)$$

ここで R は時間 t における 中の 率, k は速度定数, n は形状係数を表す。

【結果と考察】

式(1)は酪酸エチルの徐放結果をよく相関している。

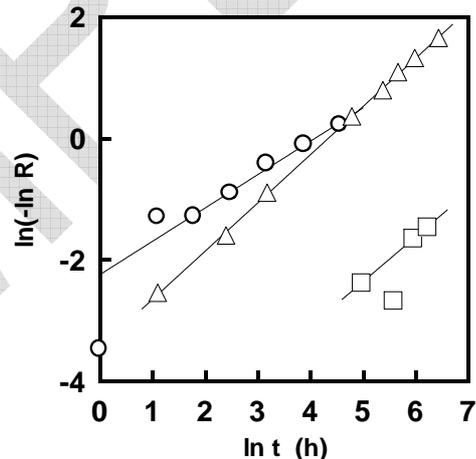


図1 による速度過程の解析
温度 25 °C, $C_{A0} = 50 \text{ mol/m}^3$, 相対湿度 : 75%,
 : 60%, : 45% .

【結言】

過程は Weibul 式でよく相関し, であることが示された。

引用文献

1) T. Kansai et al., *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, **74**, XXX-XXX (2010).

†Tel: 075-753-6XXX, Fax: 075-753-6XXX
e-mail: jsbba-goudo@kais.kyoto-u.ac.jp

30 mm